

## トピック ― 学校給食と野菜の需給 ―

学校給食は、食料の需給や、小学生及び中学生の食生活において重要な地位を占めているが、野菜に関しても同様である。

文部科学省の「学校給食栄養報告」によれば、学校給食での「緑黄色野菜」と「その他の野菜」の1日当たりの使用量は、小学生で26gと33g、中学生で59gと73gとなっている。

これをもとに、学校給食での野菜の使用量を試算すると、1か月当たり約2万6千tで、国内の野菜の1か月当たりの需要量の3.4%と、野菜の需給に少なからぬ影響を与えている存在となっている。

例えば、野菜の市場への入荷量は、夏休みが始まる7月下旬から8月上旬にかけて増加し、卸売価格が下落する傾向が見られるが、これは、学校給食向けの野菜は、直接契約で流通するものが多い中で、学校が夏休みの間は、学校給食がないことから、市場流通に流れていることによるとの指摘がある。

一方、厚生労働省の「国民健康・栄養調査」によれば、7-14歳の1日当たりの野菜摂取量は、「緑黄色野菜」が68g、「その他の野菜」が152gとなっており、学校給食での野菜の使用量から見て、小学生や中学生の野菜摂取において、学校給食がいかに重要な役割を果たしているかが分かる。

家庭における野菜の購入数量を見ると、学校が夏休みの7月や8月は減少している。夏場は重量野菜の消費が減少する傾向があるという要因はあるものの、この時期、特に、小学生や中学生のいる家庭においては、学校給食による分を補って、野菜の消費に努める必要がある。

なお、野菜需給協議会と機構では、野菜の消費拡大に向けて、8月31日に、「野菜シンポジウム～野菜をおいしく食べる～」を東京都内で開催する予定。

## 野菜の学校給食での使用量と需要量に占める割合（平成22年）

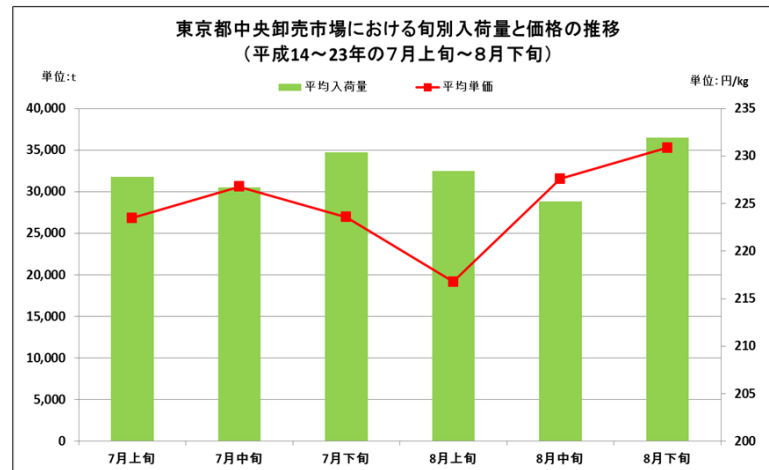
	生徒数(人) ①	給食 普及率(%) ②	給食での使用量(g/日)		月間給食使用量(t)		月間需要量(t)		給食に占める割合(%)	
			③		④=①×②×③×20日/歩留率0.7 /(1-廃棄率0.1)/1000		⑤=国内出荷量+輸入量 /12か月		④÷⑤×100	
			緑黄色	その他	緑黄色	その他	緑黄色	その他	緑黄色	その他
小学生	6,993,376	99	26.0	33.4	5,726	7,356	204,326	566,554	2.8	1.3
中学生	3,558,166	85	59.0	73.4	5,691	7,081	204,326	566,554	2.8	1.2
合計	10,551,542				11,418	14,436	204,326	566,554	5.6	2.5
(参考) 野菜摂取量(7-14歳) 緑黄色野菜 67.6g、その他の野菜 151.7g (厚生労働省「平成22年国民健康・栄養調査」より)					総計		総計		総計	
					25,854		770,881		3.4	

## 算出条件

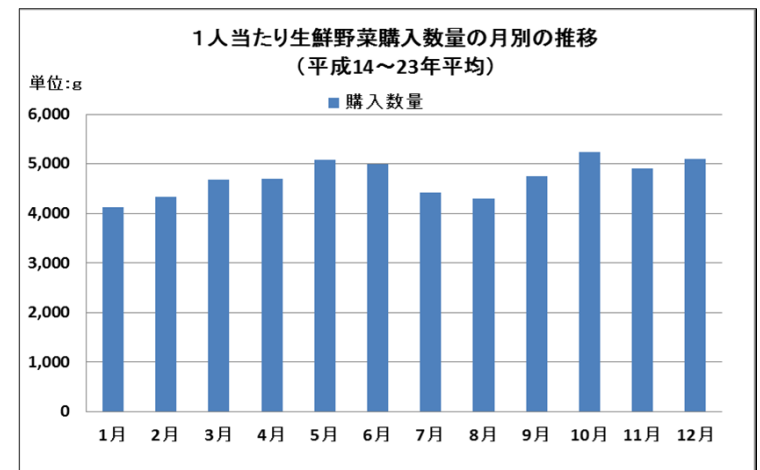
- 1) 対象は全国の小中学校(国公立・私立含む。)文部科学省「学校給食栄養報告」による。
- 2) 1日当たりの野菜使用量をもとに、歩留まり率70%、廃棄率10%と仮定し、月間(20日)の使用量を算出した。
- 3) 月間需要量は、農林水産省「野菜生産出荷統計」及び「貿易統計」に基づき平成22年における年間需要量を算出し、1月当たりの平均を算出した。
- 4) 緑黄色野菜及びその他の野菜は、厚生労働省「五訂日本食品標準成分表」における別表を参考に選別した。

## 最近の野菜を使った学校給食献立例

肉じゃが、野菜の五目煮、  
トマトと卵のスープ、パンプキンサラダ、  
ほうれんそうサラダ、キャロットゼリー等  
(各県の栄養士会ホームページ等より)



資料：ベジ探(原資料)農林水産省「青果物日別取扱高統計結果」



資料：ベジ探(原資料)総務省「家計調査(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html) に掲載しています。